

医療トピックス

くすり一口メモ

副作用予防のために定期的な検査を必要とする薬剤

血小板凝集抑制薬のチクロピジン[®]は、平成10年10月以降に副作用である血栓性血小板減少性紫斑病が死亡例を含み11例報告されました。このことにより、平成11年6月に「投与後2ヵ月間は2週に1回の血球算定、肝機能検査を行うとともに、本剤投与中は定期的に血液検査を行うこと」という一文が、添付文書の警告欄に記載されました。

厚生労働省は、医薬品で重大な副作用が報告された場合には、添付文書を改定するとともに、医薬品副作用情報を発行しホームページへの掲載を行っています。副作用の中でも特に重篤なものが判明した場合には、緊急安全性情報が医療機関へ配布され、対応策を含めた情報が警告欄に記載されるなど、医療現場への情報提供の徹底が図られています。

今回は添付文書の警告欄に、副作用を予防するために「定期的な検査等の実施」が明記されている薬剤についてまとめてみました。検査内容は腎機能、肝機能、血液の3項目とし、薬品には代表的な薬剤名を記載しました。

	成分名	薬品名	検査内容			検査頻度	目的とする副作用
			腎機能	肝機能	血液		
ホルモン剤	フルタミド	オダイン				月に1回	劇症肝炎等の重篤な肝障害
抗真菌剤	テルビナフィン	ラミシール				定期的、投与開始後2ヵ月間は月に1回	重篤な肝障害、汎血球減少、無顆粒球症、血小板減少
抗腫瘍剤	テガフル・ウラシル	ユーエフティー				投与開始2ヵ月間は1ヵ月に1回以上	劇症肝炎等の重篤な肝障害、重篤な骨髄抑制
	ホリナートカルシウム	ロイコボリン ユーゼル				1クールに1回以上、投与開始から2クールは各クール開始前及び当該クール中に1回以上	重篤な肝障害、重篤な骨髄抑制
	テガフル	フトラフル				投与開始2ヵ月間は1ヵ月に1回以上	劇症肝炎等の重篤な肝障害
	フルダラピン	フルダラ				頻回	骨髄抑制
	ゲムシタピン	ジェムザール				頻回	骨髄抑制
	レボホリナートカルシウム	アイソボリン				定期的に 投与初期は頻回	重篤な骨髄抑制、高度な下痢
	イリノテカン	トポテシン				頻回	骨髄抑制、高度な下痢
	テガフル・ギメラシル・オテラシルカリウム	ティエスワン				2週間に1回以上、1クール目及び増量時には頻回	骨髄機能抑制、劇症肝炎等
	イダルビシン	イダマイシン				頻回	強い骨髄抑制
	クラドリピン	ロイスタチン				頻回	骨髄抑制
	ネダブラチン	アクブラ				頻回	骨髄抑制、腎機能抑制
パクリタキセル	タキソール				頻回	骨髄抑制	
ピノレルピン	ナベルピン				頻回	白血球減少による死亡	
抗血小板剤	チクロピジン	パナルジン				投与開始後2ヵ月間は2週間に1回(血球算定を含む)	無顆粒球症、血栓性血小板減少性紫斑病、重篤な肝障害
痛風治療薬	ベンズプロマロン	ユリノーム				投与6ヵ月間は定期的に	劇症肝炎等の重篤な肝障害
抗ウイルス薬	アデホビルピボキシル	ヘプセラ				投与終了後4ヵ月間は2週間ごとに	肝機能の悪化もしくは肝炎の重症化
	ガンシクロビル	デノシン				頻回	骨髄抑制
	ジドブジン	レトロビル				頻回	骨髄抑制
	ネビラピン	ピラミュン				定期的に、投与開始後6ヵ月間は1ヵ月に1回	肝不全等の重篤で致死的な肝機能障害
	ホスカルネットナトリウム	ホスカビル				血清クレアチニンは頻回に、血清電解質は定期的に	腎障害、電解質異常に伴う発作
	バルガンシクロビル	バリキサ				頻回	骨髄抑制
ラミブジン	ゼフィックス				投与終了後4ヵ月間は2週間ごとに	肝機能障害	
血管拡張薬	ボセンタン	トラクリア				1ヵ月に1回、開始後3ヵ月は2週間に1回	肝機能の悪化もしくは肝炎の重症化
強心剤	ベスナリノン	アーキンZ				頻回	無顆粒球症
精神賦活剤	ペモリン	ベタナミン				定期的に	重篤な肝障害
血栓溶解剤	モンテプラゼ	クリアクター				頻回	脳出血

日本医薬品集2006年9月版、各社添付文書
(鹿児島市医師会病院薬剤部 寺師 守彦)